



平成30年2月9日

各 位

トモニホールディングスグループの平成30年3月期第3四半期決算概要について

トモニホールディングス（本社：香川県高松市、社長：遠山誠司）は、平成30年3月期第3四半期（平成29年4月1日～平成29年12月31日）連結業績等の概要と、当社グループの中核企業である徳島銀行（本店：徳島県徳島市、頭取：吉岡宏美）、香川銀行（本店：香川県高松市、頭取：本田典孝）及び大正銀行（本店：大阪市中央区、頭取：吉田雅昭）の単体業績等の概要について発表いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. トモニホールディングス

(1) 平成30年3月期第3四半期（平成29年4月1日～平成29年12月31日）連結業績

当第3四半期における損益状況は、経常収益は、貸出金利息及び国債等債券売却益が減少したものの、役員取引等収益及び株式等売却益が増加したこと等により、前年同期比320百万円増加して54,058百万円となりました。経常費用は、国債等債券売却損が減少したこと等により、前年同期比383百万円減少して40,128百万円となりました。その結果、経常利益は前年同期比704百万円増加して13,930百万円となりました。また、前期に大正銀行との経営統合に伴い特別利益として計上した負のれん発生益14,849百万円がなくなったこと等により、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比14,052百万円減少して9,803百万円となりました。なお、前期計上した負のれん発生益は一時的に発生した会計上の利益であり、これを控除した場合、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比798百万円増加したことになります。

当第3四半期末における総資産は前年度末比1,527億円増加して3兆7,733億円となり、純資産は前年度末比108億円増加して2,226億円となりました。

また、主要な勘定の残高につきましては、譲渡性預金を含む預金等残高は前年度末比1,643億円増加して3兆4,268億円、貸出金残高は前年度末比1,116億円増加して2兆6,366億円、有価証券残高は前年度末比235億円減少して7,629億円となりました。

		平成30年3月期 第3四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	54,058百万円	320百万円
	経常費用	40,128百万円	△383百万円
	経常利益	13,930百万円	704百万円
	親会社株主に帰属する四半期純利益	9,803百万円	△14,052百万円
		平成30年3月期 第3四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	37,733億円	1,527億円
	純資産	2,226億円	108億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	34,268億円	1,643億円
	貸出金	26,366億円	1,116億円
	有価証券	7,629億円	△235億円
	自己資本比率（国内基準）	9.14%	△0.10%

(2) 平成30年3月期通期（平成29年4月1日～平成30年3月31日）連結業績予想

平成30年3月期通期の連結業績予想につきましては、当第3四半期の親会社株主に帰属する四半期純利益が通期の予想値を上回っておりますが、今後の市場環境の見通しが不透明であることから、現時点において平成29年11月14日公表の予想値から修正ございません。

2. 徳島銀行

(1) 平成30年3月期第3四半期(平成29年4月1日～平成29年12月31日)単体業績

当第3四半期の損益状況は、経常収益は、有価証券利息配当金及び株式等売却益が増加したこと等により、前年同期比1,661百万円増加して20,644百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、外国為替売買損が増加したものの、資金利益が増加したこと等により、前年同期比36百万円増加して14,983百万円となり、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、経費が減少したこと等により前年同期比82百万円増加して4,839百万円となりました。

経常利益は、与信関連費用が減少したこと等により、前年同期比1,568百万円増加して6,211百万円となり、四半期純利益は、前年同期比784百万円増加して4,189百万円となりました。

当第3四半期末の主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、個人・法人預金ともに増加し、前年度末比929億円増加して1兆5,253億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前年度末比925億円増加して1兆6,448億円となりました。また、貸出金残高は、中小企業・個人向け貸出等に積極的に取り組みました結果、前年度末比528億円増加して1兆405億円となりました。なお、自己資本比率(国内基準)は9.05%となりました。

金融再生法開示債権額は、取引先企業の事業再生・経営改善への積極的な取組みによる債務者区分のランクアップや不良債権の積極的な回収を図りました結果、前年度末比1,296百万円減少して19,267百万円、総与信に占める割合は1.82%となりました。

		平成30年3月期 第3四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	20,644百万円	1,661百万円
	コア業務粗利益	14,983百万円	36百万円
	コア業務純益	4,839百万円	82百万円
	経常利益	6,211百万円	1,568百万円
	四半期純利益	4,189百万円	784百万円
	与信関連費用	293百万円	△307百万円
		平成30年3月期 第3四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	16,362億円	669億円
	預金等(譲渡性預金を含む)	15,253億円	929億円
	総預り資産	16,448億円	925億円
	貸出金	10,405億円	528億円
	有価証券	4,145億円	△208億円
	自己資本比率(国内基準)	9.05%	△0.21%
不良債権	金融再生法開示債権額	19,267百万円	△1,296百万円
	総与信に占める割合	1.82%	△0.23%

3. 香川銀行

(1) 平成30年3月期第3四半期（平成29年4月1日～平成29年12月31日）単体業績

当第3四半期の損益状況は、経常収益は、役員取引等収益が増加したものの、有価証券利息配当金や国債等債券売却益が減少したこと等により、前年同期比1,912百万円減少して20,805百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、資金利益が減少したこと等により、前年同期比1,028百万円減少して16,273百万円となり、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、前年同期比1,302百万円減少して5,055百万円となりました。

経常利益は、上記要因等により、前年同期比762百万円減少して5,995百万円となり、四半期純利益は前年同期比6百万円減少して4,377百万円となりました。

当第3四半期末の主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、個人・法人預金ともに増加し、前年度末比665億円増加して1兆4,780億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前年度末比611億円増加して1兆6,245億円となりました。また、貸出金残高は、中小企業・個人向け貸出等に積極的に取組みました結果、前年度末比486億円増加して1兆2,110億円となりました。なお、自己資本比率（国内基準）は9.97%となりました。

金融再生法開示債権額は、取引先企業の事業再生・経営改善への積極的な取組みによる債務者区分のランクアップや不良債権の積極的な回収を図りました結果、前年度末比761百万円減少して22,044百万円、総与信に占める割合は1.79%となりました。

		平成30年3月期 第3四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	20,805百万円	△1,912百万円
	コア業務粗利益	16,273百万円	△1,028百万円
	コア業務純益	5,055百万円	△1,302百万円
	経常利益	5,995百万円	△762百万円
	四半期純利益	4,377百万円	△6百万円
	与信関連費用	117百万円	△73百万円
		平成30年3月期 第3四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	16,609億円	791億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	14,780億円	665億円
	総預り資産	16,245億円	611億円
	貸出金	12,110億円	486億円
	有価証券	3,048億円	△36億円
	自己資本比率（国内基準）	9.97%	△0.22%
不良債権	金融再生法開示債権額	22,044百万円	△761百万円
	総与信に占める割合	1.79%	△0.15%

4. 大正銀行

(1) 平成30年3月期第3四半期(平成29年4月1日~平成29年12月31日)単体業績

当第3四半期の損益状況は、経常収益は、利回りの低下により貸出金利息が減少しましたが、有価証券利息配当金や役員取引等収益が増加したこと等により、前年同期比144百万円増加して7,143百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、資金利益が増加したこと等により、前年同期比231百万円増加して5,999百万円となり、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、前年同期比369百万円増加して1,273百万円となりました。

経常利益は、上記要因等により、前年同期比108百万円増加して977百万円となり、四半期純利益は、前年同期比66百万円増加して616百万円となりました。

当第3四半期末の主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、個人・法人預金ともに増加し、前年度末比57億円増加して4,478億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前年度末比75億円増加して4,696億円となりました。また、貸出金残高は、中小企業・個人向け貸出等に積極的に取組みました結果、前年度末比102億円増加して3,930億円となりました。なお、自己資本比率(国内基準)は6.41%となりました。

金融再生法開示債権額は、取引先企業の事業再生・経営改善への積極的な取組みによる債務者区分のランクアップや不良債権の積極的な回収を図りましたが、前年度末比113百万円増加して6,732百万円、総与信に占める割合は1.70%となりました。

		平成30年3月期 第3四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	7,143百万円	144百万円
	コア業務粗利益	5,999百万円	231百万円
	コア業務純益	1,273百万円	369百万円
	経常利益	977百万円	108百万円
	四半期純利益	616百万円	66百万円
	与信関連費用	463百万円	671百万円
		平成30年3月期 第3四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	4,937億円	44億円
	預金等(譲渡性預金を含む)	4,478億円	57億円
	総預り資産	4,696億円	75億円
	貸出金	3,930億円	102億円
	有価証券	409億円	2億円
	自己資本比率(国内基準)	6.41%	0.25%
不良債権	金融再生法開示債権額	6,732百万円	113百万円
	総与信に占める割合	1.70%	△0.02%

以上

【本件に関するお問い合わせ先】

トモニホールディングス株式会社 経営企画部	TEL : 087-812-0102
株式会社徳島銀行 企画部	TEL : 088-656-1118
株式会社香川銀行 総合企画部	TEL : 087-812-5132
株式会社大正銀行 企画部	TEL : 06-6205-8400